



新しい機器や
飛行技術の実用化のために
テイクオフ!



実験用航空機

飛翔

JAXA 実験用航空機「飛翔」は、アメリカのセスナ社製の双発ビジネスジェット機「セスナ式 680 型」(サイテーション・ソプリン)を母機とし、さまざまな飛行実験に備えて、機体の速度、高度、姿勢、位置、舵面の作動状態を計測できる各種センサやデータ収集装置を搭載した機体です。現在の航空輸送の主力であるジェット機に関する技術開発に活用しています。

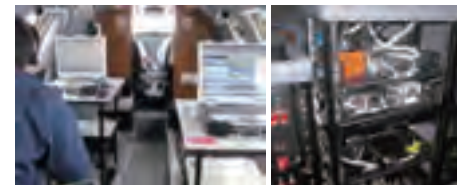
コックピット

最新の飛行計器を装備しています。



キャビンと計測機器

飛行試験のデータや記録をするための装置を装備しています。



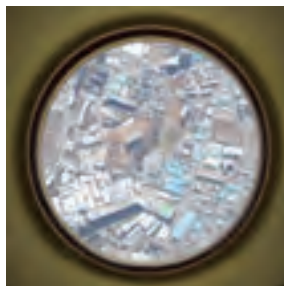
アンテナ

データを地上へ送信します。



カメラ孔

機体の真下を撮影することができます。



ノーズ・ブーム

空気の流れを調べます。(計画中のため合成)

計測ポッド用パイロン

飛行試験の内容によって計測機器の取付ができます。



取付イメージ

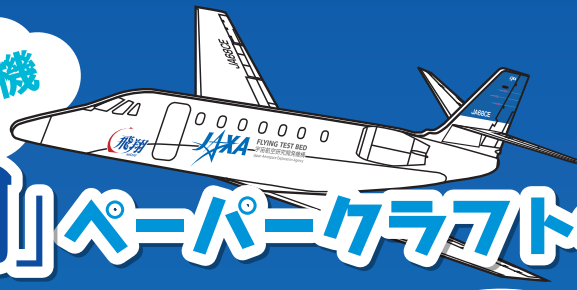
アンテナ

舵角センサ

舵面の動きを計測できます。

飛翔 主要データ
HISHO

- 全長 ▶ 19.35 m
- 全幅 ▶ 19.30 m
- 全高 ▶ 6.20 m
- 最大離陸重量 ▶ 13,744 kg
- 最大巡航速度 ▶ マッハ 0.80
- 最大運用高度 ▶ 14,326 m
- エンジン ▶ PW306C 2基



作って
とぼそう!

実験用航空機
ひしょう

「飛翔」ペーパーキットの作り方

用意するもの

- はさみ
- 強力スティックのり

作り方

1 胴体(どうたい)をつくる

胴体の部品①②③④⑤をきれいに切り取ります。①②の主翼をはりつけるところを谷折りにします。③④⑤の機首を左向きにそろえてはり合わせ、①と②ではさみ込み、全体をしっかりとはり合わせます。その時、谷折りにした部分は、はりつけないように気をつけましょう。

2 主翼(しゅよく)をつくる

部品⑧をきれいに切り取ります。点線-----のところを山折りにして重なるようにはり合わせ、乾くまでしっかり押さえます。主翼の中心線の点線-----を軽く谷折りにして、角度(上反角)をつけます。

3 尾翼(びよく)をつくる

部品⑥⑦をきれいに切り取ります。点線-----のところを山折りにし、胴体後ろのはり位置に⑥⑦をはり合わせます。その時、左右を確かめてはりましょう。

4 主翼を胴体につける

胴体を主翼の中心にあわせてはり合わせます。この時、しっかりと押さえます。

5 調整する

できあがったら、前から見て主翼と尾翼が曲がっていたり、ねじれてないか確かめましょう。主翼と尾翼を少し上になるように取付部に角度をつけて、主翼のフラップ部分には少し丸みをつけましょう。

6 スタンドをつくる

スタンドに切り込みをいれてかざりましょう。

7 飛ばし方

広いところで他の人にぶつけないように飛ばしましょう。飛ばす時は、主翼の後ろを親指とひとさし指で持ち、水平に前に押し出すように飛ばしましょう。

胴体の部品をきれいに切り取ります。

胴体の部品をはり合わせます。

谷折りにします。

主翼をつくります。

尾翼を胴体にはります。

胴体と主翼をはり合わせます。

正面から見て胴体、翼の曲がり直します。

主翼と尾翼を少し上に曲げます。

フラップ部分に丸みをつけます。

完成!

水平にして、前に押し出すように飛ばしましょう!



作って
とぼそう！

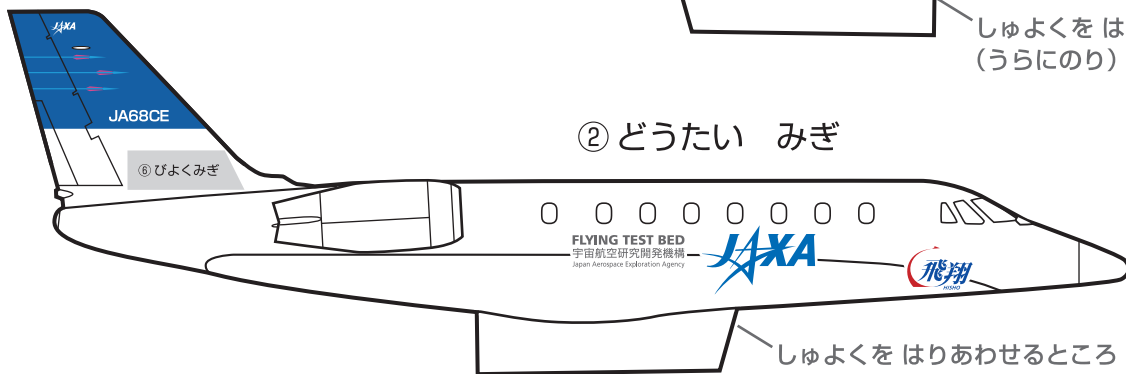
実験用航空機 「飛翔」



① どうたい ひだり

⑦ びよくひだり

しゅよくをはりあわせるところ
(うらにのり)



② どうたい みぎ

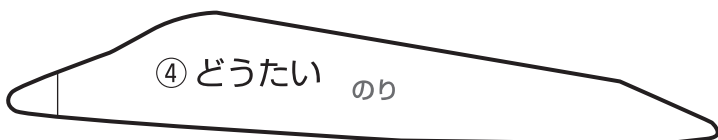
⑥ びよくみぎ

しゅよくをはりあわせるところ
(うらにのり)

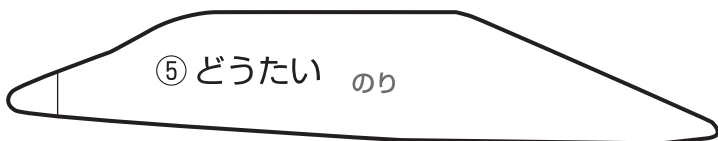
⑨ スタンド



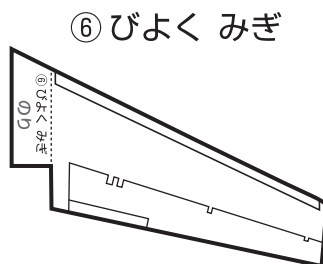
③ どうたい のり



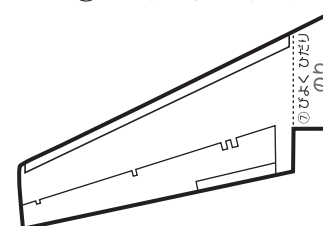
④ どうたい のり



⑤ どうたい のり



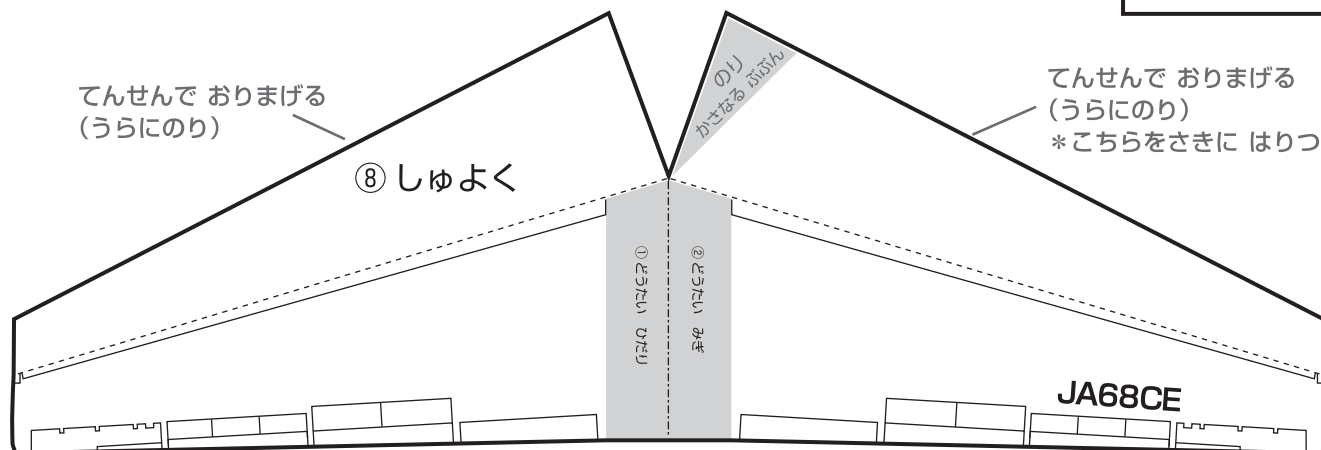
⑥ びよくみぎ



⑦ びよくひだり



のり



てんせんで おりまげる
(うらにのり)

⑧ しゅよく

① どうたい ひだり

② どうたい みぎ

てんせんで おりまげる
(うらにのり)

*こちらをさきにはりつける

JA68CE